

2024年6月28日

学校法人三幸学園
名古屋リゾート&スポーツ専門学校
校長 岩田 博文 殿

学校関係者評価委員会
委員長 浅野 栄介

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 酒井 光里 (株式会社 nano)
- ② 浅野 栄介 (有限会社太閤オフィスサービス 代表取締役社長)
- ③ 玉田 鷹士 (第15期卒業生 株式会社 ACE)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月28日 (会場 名古屋リゾート&スポーツ専門学校 別館101教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 名古屋リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小久保 和紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅野 栄介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

○教科担当とのリレーション強化

・情報の共有化や2WAYのコミュニケーション、上下の垣根を撤廃しゴールイメージの共有化を目指す

振り返り:

・情報の共有化を図るために発信をしていたものの伝達ツールの閲覧が不足し、うまく共有できないこともあった。
・全体会議や学科会議等のゴールイメージを共有化する機会の出席の促しが不十分で全員参加には至らなかった。

○次週の授業が楽しみでもっと学びたいと思える授業展開の実施

・学ぶ環境を整える、学ぶ内容に差を生まないために統一した指導と授業計画書の網羅が必要
⇒授業ガイダンスを実施し、授業評価や授業内容を初回授業にて生徒伝達する

振り返り:

・ガイダンスを実施したものの教科ごとに量の差が出てしまいガイダンスの質に差を生んでしまった

② 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：昨年度というところで考えると、ツールを使っただけのコミュニケーションはできていない。少しは増えたが対面で会ってお話しをすることが多かった。クラスに対して個々でやっているものがよくわからないまま進んでいた。

酒井委員：昨年度は栄養の授業を担当していて、資格を取るための授業ではなかったため、単独で動いていくことが多かった。ツールを使うというよりは直接伝えることが多かった。

浅野委員：弊社では特に進んだ技術のツールを使うことはしていない。

玉田委員：学校が様々な取り組みをされているというところで研修をしていただいていたので、1回目の授業に対しての熱量が増え、準備により時間をかけた。意識改革が行われていた結果、モチベーションが高い生徒はより高くなり、2:6:2で分かれる6の生徒が上に引っ張られていたような気がした。

酒井委員：現実的には難しいかもしれませんが、全体会議の後に開催している学科会を生徒に見せることができたら、どの教科が関連してる授業なのかがイメージが付き紐づいていきやすいのではないかとと思う。

小久保さん：本校の場合、職員室が2つあり教職員が分散してしまう現状にある。生徒状況を把握しなければならぬ4月～6月に土日のオープンキャンパス出勤などもあり、どうしても平日のお休みもあることによりなかなか生徒に会えない状況もある。上辺だけにはならないようにしたいためツールを使用したりしているが、生徒や教職員がしっかりと見てくれているのか？という発信した後の声かけができていなかった。対面でのコミュニケーションができればこのツールを使用しなくても問題ないので時間を合わせて今後も対面でのコミュニケーションはしてもらいたい。全体に見てもらいたいため一斉発信をしている部分に関しては、まだまだ伝達の部分で行き届いていなかったと感じる。全体会議やキックオフミーティングの出席率が名古屋地区の中で一番悪い状況。今年度に関しては、この2つの会議を同じ週で行うことになってしまい、本校は非常勤講師が多いため週2日本校以外のお仕事をお休みにするということが厳しいというご意見もいただき、来年度は変更しようと思っている。また、連絡担当というものも設けているが名ばかりでしっかりと連絡をしていない現状があるのでその辺りも改善していく必要がある。

2025年のカリキュラム変更で今まで以上に座学でも実技を取り入れるなど工夫し、楽しくなるようなものに変更していく予定。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・各学科の人材像が講師の先生方へ浸透していない
- ・変化の多い業界のニーズに合わせた人材育成像になっていない可能性がある（SNS等のカリキュラム編成）

② 今後の改善方策

- ・全体会議の中での学科会にて随時共有していく
- ・2025年度にカリキュラム再構成実施予定

③ 特記事項

- ・2025年度から大幅なカリキュラム変更を実施する

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員： 学科会、コース内での内容で専門用語がとても多く新人の先生が用語自体がわからない。（例えば、RS・AT・ST・SI など）

名古屋 RS のパンフレットがとてもわかりやすいので新人の先生に共有するといい。生徒がどこを目指しているのかなど写真等でまとめられているので充分把握ができると思う。

酒井委員： 実際に働いている中で自分自身も遅れている部分を感じている。他の先生がどのように情報収集しているのか？自分で情報収集をどのようなようにしたらいいのかを伝えていくとよい。

小久保さん：2025年度からスポーツトレーナー科・スポーツアクティビティ科・スポーツビジネス科が業界ニーズ、生徒のニーズにあわせた大幅なカリキュラムに変更される。学校理念、人材育成像を全体会議等で触れる必要があるが、時間が足りなくなかなかこの部分を浸透させることができない。資料内には掲載はしているがなかなか共有できていない。職員室内に掲示するなど可視化できるようにする。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・システム導入期のため業務の浸透がされていなく効率化はされなかった
- ・Sankogate の生徒定着はしてきているが、有効活用まで至っていないことやアンケート取得率向上の結果が出ていない。それに伴い事後のフォローをする業務が発生してしまい業務の効率化ができてない。

② 今後の改善方策

- ・使用頻度を増やすことで職員全員が使用ツールの理解度を深めていく(マニュアル)
- ・アンケートがいつ発信されるか職員も生徒も把握することで効率化を図る
- ・可視化できるツールも活用し、生徒が自分で気づくことで業務の効率化を図る

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員：弊社でも非常に課題。書類1つにとってもそうだが見積書・請求書などをデジタル化をしていて、手作業で行えば2重3重チェックをしなければならないのでシステムを導入したいと考えているが、費用面もありどこから着手していくのが課題。

玉田委員：規模が少人数の為、無料のアプリケーション等で活用をしている。極力紙を出さないようにし、データ・PDFで送るようにしている。授業の中でもプリント配布ではなくデータで共有ができるといい。タブレットやPC利用が必要となるのでその辺りは難しい点もある。

酒井委員：講師だった際、週1の授業だったのでなかなかシステムの認識できないまま1年終わってしまった。複数のツールではなくなるべく1つのツールのまとめるといいと思う。

小久保さん：2023年度は、インボイス制度や電子帳簿保存法が始まり、制度への理解がままならない中でシステムを導入して処理が楽になったと感じることができる日がいつくるのかと思っている。導入のタイミングはすぐに対応できない状況。これは Sanko Gate や teams も同様の問題があげられる。アナログも含めてという前提の運用がまだ必要。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・カリキュラムの作成と見直しは科目によって様々となっている。業界団体以外のカリキュラム見直しは講師等校内で完結してしまっている状況。
- ・ボランティア等課外活動への参加率が低く校外での職業教育が十分にされていない
- ・任意研修の職員参加率が低くその原因は日程が授業と被ってしまい参加できていない

② 今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会や産学連携で業界関連企業でのヒアリングを実施する
- ・職員が積極的な企業訪問で業界の魅力理解や魅力のある企業の新規開拓をする
- ・研修を受けてきた人より内容を共有して未参加者の研修意欲を高めていく

③ 特記事項

- ・全体会議にて職員向けの授業力向上の為の取り組みは実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員： 今、弊社へ教職員がモニターとしてきてくれていて、生徒に伝えたりして教職員が生徒を巻き込んでいただけるとよりいいと感じる。

玉田委員： 昨年度の実習生が弊社に就職をした。実習をしていると就職後のイメージが付きやすい。またミスマッチが起こりにくい。入社後1ヶ月時の面談の時も「イメージ通りだった」という意見をもらえた。やはり現場に行くことは必要だと感じた。実習前の生徒への教育はされているのか？

吉越さん： 「インターンシップ実習特論」の授業内で実習の動機付けやマナーという部分、実習ノートの記載方法など実習へ行く前の心構え等を提供している。

玉田委員： 実習を受け入れている、実習前に内容を伝えるだけなのか？もしくはしっかり準備させた上で行かせるのか？と感じることがある。実習中も受け身の生徒が多く、もっと能動的に提案をしてくれるとより現場に寄り添えるのではないかと思う。

浅野委員： 娘が専門学校に通っている。インターン先でお客様として扱われている状態。社会に出る1つの準備として教職員が協力して生徒と向き合っているということを聞いて娘の専門学校ではそこまで先生が力を入れてくれないイメージなのでより素晴らしく感じた。

小久保さん： 本校の実習は選択制なので我々が求めているのはまずは、現場を見る必要があるから行ってきなさいというスタンス。現時点で1年生が90%以上実習に行くという希望が出ている。1年次はまず行って経験させる、より深く学び体験したいと感じる生徒は2年次に学ばせるということができれば価値が上がっていくと感じるため今後検討していく必要がある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・既存で関わっていただいている企業への就職者が多く新規での企業開拓ができていない
- ・卒業生向けの SNS 発信はしているものの登録者数や閲覧数が増えずに伸び悩んでいる

② 今後の改善方策

- ・生徒のニーズを把握した新規企業開拓と定期的な訪問を実施する
- ・定期的な配信をすることで常にリアクションを見ていく事と、より有益な情報発信をしていく

③ 特記事項

- ・2024 年度キャリア教育のテキストの変更

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員： インスタグラムを拝見していて、卒業生インタビューはイメージがついてとてもいい。もっと増やしていくといいのではないかな。

玉田委員： 卒業生を見ていて現場にでて資格取得率をもっとあげていきたい。現場では資格は取って当たり前。キャリア形成では、まず3年は働く意識が薄れてきている。就職した先が合わなかった時、他業種も含め新たな職もあるということを伝えていくとよいのではないかな。

浅野委員： 転職をする方が多い。今は、退職代行システムなどがありそのようなシステムは使用せず、なるべく自分自身で伝えるなどが必要。人格形成も必要。

小久保さん： 実際卒業生も退職代行を利用していることも出てきている。辞め方はとても大事と痛感している。キャリア教育に関しては、2024 年度からテキストを変更し、卒業後豊かな人生を送るための授業をしている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生の現状把握ができておらず求めている支援内容が把握できていない。
- ・独立支援など支援している内容の理解がなされていないので活用されない

② 今後の改善方策

- ・卒業後の支援内容が明確になっておらず支援内容を把握するための会を開催する
- ・卒業後の情報発信ツールを浸透させていく

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員： 現在遂行していることを提供していけばいいのではないかとどう届けていくかだけ。

浅野委員： 素晴らしい取り組みだなと感じた。

酒井委員： 卒業生の参加できるセミナー、独立したい投資したいなどの興味をもっている方が多い。セミナーと一緒に交流会があると参加しやすいと感じるし、私も参加したいと思う。

小久保さん：今年度からスクールカウンセラーは、2名体制にした。進めかたも難しい。

卒業生に関しては、同窓会の活動を増やしていく。しっかりと周りに伝えていきたい。地域も巻き込みたい。同窓会支部長なので、イオンなどを利用して、スポーツ・美容・食などの発信することができると思う。同窓会としては、3年後の開催(30周年)となるので盛大なものをやりたいと考えている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・インターンシップの希望が100%生徒の希望通りとはいっていないため、多くの企業様やチームへ本校の教育理解をしてもらう事が必要
- ・海外研修において価格の上昇に伴い参加者が集まらない

② 今後の改善方策

- ・企業様へ訪問し、本校の理解をってもらう事と受け入れ先のメリットを擦り合わせることで実習のより良い受け入れをもらう
- ・適切な価格で提供するためにアメリカだけでなく時期や地域等外的要因とし大きな影響がない地域も検討する

③ 特記事項

- ・警察の方にお越しいただき、「さすまた」の使い方を教えていただいた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員： 継続的には難しいことが多く、夏休みの1日、2日の単発での体験会などを開催できそう。

玉田委員： 海外研修行きたいと今も思っている。在学中は金銭的に難しく、行けなかったから卒業してからも行きたいと思っている。

小久保さん： 過去にもそういう提案をしたことはあるが様々な申請等の兼ね合いで見送りになっている現状がある。現実化したらとてもいい機会となるのでいずれ検討していきたい。

浅野委員： 防災・安全管理に対する体制は、予算の中でしっかりと対応されている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・入試方法について専門学校より高校への周知が不足している

② 今後の改善方策

・入学相談室と連携を取り高校との関係性を深め入試方法の理解促進を進める

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員： 高校の先生から方向づけられたかはわからなかったが、オープンキャンパスへ行った。現在、娘が専門学校へ通っているが今のところ学校から保護者へのアプローチはない。娘が悩んでいることや就職のことなど特に連絡がなく残念に思う。三幸学園は様々なアプローチをされていて生徒に対して一生懸命な姿が素晴らしいと感じた。

玉田委員： 何かお手伝いできるようなことはないかなと思っている。中学校でキャリアナビゲーターが置かれていて、その方からの依頼で職業体験を3回ほど行った。リゾスポ生もその場へ行ってみるのもいいかと思った。中学生なのですぐ入学へ繋がらないかもしれないが、早期に進路について考えてもらうきっかけとしてはいいのではないかな。

酒井委員： 何かお手伝いできることがあれば協力させていただきたい。

小久保さん： 中学生広報はぜひ積極的にしたいと思っている。出向いていける機会があれば前向きにやっていきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・外部での教育の成果は発表できたものの学校施設を使用した社会貢献を十分にされていなかった
- ・地域に対する公開講座において情報伝達が十分にされていなかった

② 今後の改善方策

- ・公開講座を行う際、学校施設を使用し幅広く告知の実施をする
- ・地域の会合等がある際、教室の貸し出しを実施する

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員： 総合演習の授業では、現在、集客は学生に任せている形になっているのでもう少し、学校側や広報室などを巻き込んでいったほうが集客しやすいのではないかな。

外部への施設貸出については、場所を借りたい業界の方はいるのではないかな。チラシ等を配布することも可能なのでできることがあれば協力したい。

酒井委員： 集客をするというのは大変なことなので、不特定多数の方が来る場所での開催をするほうがいい。口コミで広がることもあるので不特定多数の場所で行うことが有効的だと感じる。

浅野委員： ラジオ体操・お祭りの御神輿など、地元の地域活動に生徒が参加するのはどうか？

小久保さん： 地域の人からこのようなことをやってもらえませんか？というお声がもらえるようなことができるといい。リゾスポはプールやマシンルームがあるので高齢者の方に来てもらってスポーツをしてもらえるようになってもらえるといい。学校に集まってきて毎週来てもらうというような施設の活用ができるといいと感じている。もっと地域から求められるようになると日々の関係性が良くなるのではないかな。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【委員長より】

自身の娘も専門学生だが、三幸学園は非常に手厚く学校運営を実施している。保護者連携や卒業生連携を強めていく事でさらに良くなると感じる。さらに地域連携をすることで地域にも愛される学校になると思うので地域の神輿担ぎやラジオ体操等の活動がいずれできることを楽しみにしている。

【学校側より】

お話いただいて、より具体的にこれをやってみたいということがあがった。学園全体で動いているところはすでに実施予定もあり、その結果は数値的部分での報告や「最近リゾスポの生徒達が地域貢献をしているよね。」といった声がみなさんに届けられるような活動をしていけるようにしていきたい。来年度のこの機会の際には、活動報告をできればと思っている。2024年度に実施した内容がどのようになったのかということもお話できればより新たな施策等のお話にも繋がると思いますのでそのようにできればと思う。